

「農」と「街」を結ぶ。

地域の心をひとつにまとめるガルテン

上秋津地区は梅とみかんの栽培で知られる里。しかし近年、新しい住民が増えてきたことで地域の特色が薄れつつある。そこで、地域をまとめるための街づくりが進められてきた。この取組みの象徴として二〇〇八年秋、旧い小学校の校舎が農を体験する交流施設「秋津野ガルテン」としてよみがえった。

木造校舎をシンボルに

JR紀伊田辺駅から車で二〇分ほど。のどかな風景のなかに秋津野ガルテンがある。木造校舎の前で枝を広げるクスの木が郷愁をさそう。ちょうど昼前で、併設のレストラン「みかん畑」の開店を待つお客さんが校舎の周りを散策している。「手洗い場の蛇口ってこんなに低かったんやねえ」「黒板つて懐かしいわ」。人気の元は、農家のお母さんたちが地元の食材でつくるスローフード・バイキング。〇八年十一月のオープン以来、連日約百人が訪れる。

〇六年、上秋津小学校が新校舎に移転し、旧校舎を取り壊して宅地にするようになった。これに対して住民による保存運動が始まった。「市街化が年々進み、特色のない土地になりつつあったので、昔ながらの景観を守るシンボルにしたいという願いでした」と、秋津野ガルテンを運営する株式会社秋津野の玉井常貴代表取締役社長は振り返る。地域づくりの中心となってきた地域づくり団体「秋津野塾」が、国のグリーンツーリズム施策の流れに沿って、「農」を生かした都市との交流施設をつくることを提案した。ところが、「そんなことは行政に任せておけ

ば」「公園にすればいい」「本当にできるんか」と懐疑的な意見が続出し、何度も挫折しかけた。

半世紀の積み重ね

それはね返したのは、半世紀にわたる積み重ねだった。地域づくり団体「秋津野塾」は、地域の環境整備や祭りなどを通じて農家と新住民の交流を深め、小学生の農業体験学習なども進めてきた。農林水産業者表彰の「豊かな村づくり部門」で天皇杯を受賞したことも大きな自信になった。



季節の味が楽しめる「俺ん家ジュース」



「みかん畑」で働く地元の女性陣



一九九九年には、地域の人が出資して秋津野直売所「きてら」を設立。当初は、わずか二〇坪の店は倒産の危機もあったが、全員で知恵を出し合って開発した地域産物の詰め合わせ「きてらセット」が大ヒット。その後、新店舗や農産物加工場をつくり「俺ん家ジュース」も売り出した。粘り強く住民の理解を深めていった結果、計画は大きく前進。地元に加え地域外からも株主として出資を受け、二〇〇七年六月、資本金三、三三〇万円出資者二九八名の株式会社秋津野が誕生した。現在、株主は約五〇〇人に増えている。

挑戦はまだ続く

「ガルテン」の名称は、ドイツの貸農園「クラインガルテン（小さな庭）」から。校舎を耐震補強して体験室や研修室を整備し、近隣に貸農園六十四区画を確保。旧校庭にはトイレ、浴室、キッチン完備の宿舍棟やレストランを新築した。

「貸農園はすでに半分ほど埋まっていて、



左：田辺湾を望むみかん畑で収穫体験も
右：玉井副社長

「秋津野ガルテン」 <http://agarten.jp/>
tel.0739-35-1199

秋津野直売所「きてら」



「きてら」は、「(ぜひ)来てね」という意味の方言。右会津川沿いに建つログハウス風の店舗は、温州みかん、ポンカン、デコポンなど、地元でとれる柑橘類が勢揃い。梅干、手づくりジャム、金山寺味噌、手づくりコンニャク、山菜、漬物、花なども充実している。

一番人気は100%地元産の「俺ん家ジュース」。ネット通販でお取り寄せも可能だ。



www.kiteraga.com
tel.0739-35-1177

Change & Challenge 3



大ヒット中の「きてらセット」



大人気のスローフード・バイキング



家族連れで賑わう「みかん畑」



都市と田舎の交流室

